



▲南海地震で落橋した渡川鉄橋 (提供: 四万十市)

背景

昭和21年 (1946) 12月21日午前4時過ぎ、突如襲った大地震とその後の火災は、中村のまちに壊滅的な被害をもたらしました。旧中村市の被害状況は、死者・行方不明者291人、負傷者1,065人、家屋の全壊1,919戸、半壊1,372戸、焼失163戸に及びました。人々は、中村の町は再起不能かと思うほどだったと言われています。

アクセス 赤鉄橋 (四万十川)



- 土佐くろしお鉄道中村駅より西北西へ直線距離約2km
- 四万十市中村
- 緯度経度 北緯32度59分24秒, 東経132度55分40秒



昭和南海地震は、中村一万町民の暁の夢を破り、恐怖のどん底につき落としました。また、揺れる暗黒の家からようやく戸外に逃れ出た人々を霜の上にコロコロと転がし、怒濤のような物凄い音をたてて、全町二千余の家屋をほとんど全半壊させました。もうもうとたちこめた土煙は救いを求める悲痛の叫びを呑み込み、一瞬のうちに町を修羅の巷とさせ、夜明けまでには完全に町を廃墟にしてしまいました。

まだ明けやらぬ地震直後、あちこちで人家が火を発して人々を狼狽させましたが、いずれも周囲に空き地があつて他への類焼を免れ鎮火しました。しかし、間もなく町中から燃え上がった火の手はみるみるうちに家々に燃え移り、猛火となって凄惨な光景を呈し、計六十余戸を焼き払ってようやく鎮火しました。

白日のもとに見る中村市街地は何と悲惨な光景だったことでしょうか。焼け跡からはもうもうと煙が上がリ、町中のほとんどの家屋が全壊、半壊の状態でした。国民学校なども無惨に倒壊し、渡川鉄橋 (通称赤鉄橋) もトラス部分八径間のうち、両端を残して六径間が落橋していました。

中村は再起不能かというのが人々の実感でした。

